

独立行政法人水資源機構理事長賞（優秀賞）

水の明日を考える

香川県 丸亀市立南中学校 二年 萩原 美姫

香川県に住む私達にとって、水は本当に大切です。私は中学二年生ですが、毎年夏になると「今年も水不足になるのかな」と心配になります。テレビのニュースや学校の授業でも、香川県は雨が少なくて水が足りなくなりやすいと聞きます。

水は、私達が生きていく上でなくてはならないものです。飲み水はもちろん、ご飯を作る時、お風呂に入る時、洗濯をする時、毎日たくさん水を使っています。学校のトイレやプールの水も、工場で何かを作る時も、農業で野菜や果物を育てる時も水がなければ何もできません。もし、水がなくなってしまうたら私達の生活は大変になってしまいます。

だから、水を大切にする気持ちを持つことがすごく大切だと思います。父や母が、

「お風呂や洗面の時は水を出しっぱなしにしないよ。」

と言っているのを聞くと、少しめんどくさいと思うこともあります。でも、それは香川県に住む私達にとって、とても意味のあることなんだとよく考えるようになりました。

水が少ない香川県で、これからもしっかり水を使えるようにするためには「水資源開発」というものがとても大切だと知りました。例えば、大きなダムを作って雨が降った時に水を貯めておくことや川の水をうまく利用すること等がこれにあたります。香川県には、香川用水という大きな水の通り道があつて、徳島県の吉野川から水が運ばれてきています。これがあるから私達は普段の生活で困らないくらい水が使えるのだと知って、すごい技術だと感動しました。これからも新しい技術を使って、もっと効率的に水を使ったり海水を真水に変えたりするような方法も研究されていると聞いて将来が楽しみになりました。

将来、私は水について理想や夢を持っています。まず、香川県だけでなく世界中のどこでも、みんなが安心してきれいな水を飲めるようにな

ることです。雨が降らない日があつても、水の心配をしなくても良い仕組みができたらいと思います。そのためには、もっと水を大切にする気持ちをみんなが持つことが必要です。学校で水の授業を増やしたり、みんなで水を大切にするポスターを作り地域の人達にも広めたり、雨水を貯めて植物に水をあげたり、トイレに使ったりするシステムが多くの家で当たり前になったなら水の無駄遣いが減ると思います。「SDGs」という言葉も小学校で習いました。持続可能な開発目標のことで地球を大切にみんなが幸せに暮らせるようにするための目標です。その中に「安全な水とトイレを世界中に」という目標があります。水を大切に使うことはもちろん、海外でも水に困っている人達がいることを知り、支援できることがないか考えていくことも大切だと感じました。

私の家でも水の無駄遣いをしないように、みんなで心がけています。例えば、シャンプーをしている間や体を洗っている間はシャワーをこまめに止めることや食器を洗う時も油污れを拭き取ってから洗剤を使うようにしています。そして、おじいちゃんの水やりの知恵です。雨が降る日には、必ず外に大きなポリバケツを出して雨水を貯めて、晴れた日にその雨水を畑にまいています。初めは「どうして、そんなことをするのだろうか。」と思っていましたが、水道水を使わずに畑の野菜に水をあげているのを見て、これが節水の工夫だと気づきました。こういった小さなことでも家族で意識して続けることが大きな節約に繋がるのだと思いました。

水は限りある資源であり、私達はそのことを意識して生活しなければいけません。これからも水を大切にする心を忘れずに、自分達にできることを一つ一つ実せんしていきたいと思っています。